

平成27年度研究成果中間報告書《平成27年度指定教育課程研究指定校事業》

都道府県・ 指定都市番号	25	都道府県・ 指定都市名	滋賀県	研究課題番号・校種名	3(4)小学校
				領域名	E S D
研究課題	<p>学習指導要領の実施を踏まえた、学校全体での教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究</p> <p>(4) E S Dを学校全体で体系的に推進するために、各教科等の連携により、持続可能な社会づくりに関わる課題を見だし、それらを解決するために必要な能力や態度を児童生徒に身に付けさせるための教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究</p>				
学校名 (児童・生徒数)	<small>ふりがな</small> 学校名 (児童・生徒数) <small>しがけんひこねしりつじょうせいしょうがっこう</small> 滋賀県彦根市立城西小学校 (408人)				
所在地 (電話番号)	滋賀県彦根市本町3丁目3-22 (0749-22-7613)				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	<a href="http://www.jyosei-hiko.ed.jp/">http://www.jyosei-hiko.ed.jp/</a>				
研究のキーワード	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域教材と学びへの意欲</li> <li>・ 思考力を高めるために</li> <li>・ E S Dの視点に基づく評価</li> <li>・ 実践力の育成</li> </ul>				
研究成果のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域教材の開発により、子供たちの意欲を高め、地域とつながり、主体的、協働的な学びを促進することができた。また、学習を基に、子供たちが自ら考え行動・実践する場を設定することができた。</li> <li>○ 思考ツールの活用により、個々の子供が収集した情報や自分の考えを可視化したり操作したりすることができ、協働的な学びに結び付けることができた。</li> <li>○ E S Dの視点を意識した評価規準を作成し、ルーブリックを用いた評価手法を取り入れることにより、学習のなかで育成する能力を明確にして指導を進めることができた。</li> </ul>				

## 1 研究主題等

### (1) 研究主題

世界に目を向け、豊かなつながりの中で、未来にたくましく生きる子どもの育成  
『 Think Globally Act Locally 』

### (2) 研究主題設定の理由

21世紀は、「知識基盤社会」と言われ、従来の基礎的な知識、いわゆる漢字や計算といった教科内容の知識はもとより、将来社会に出てから学びたいことや探求したいことができる、またそうせざる得ない状況になったときに、様々な人々と関わりながら、よりよい社会作りに向けて、自ら学び、自ら考え判断し、行動していく力が必要になってくる。

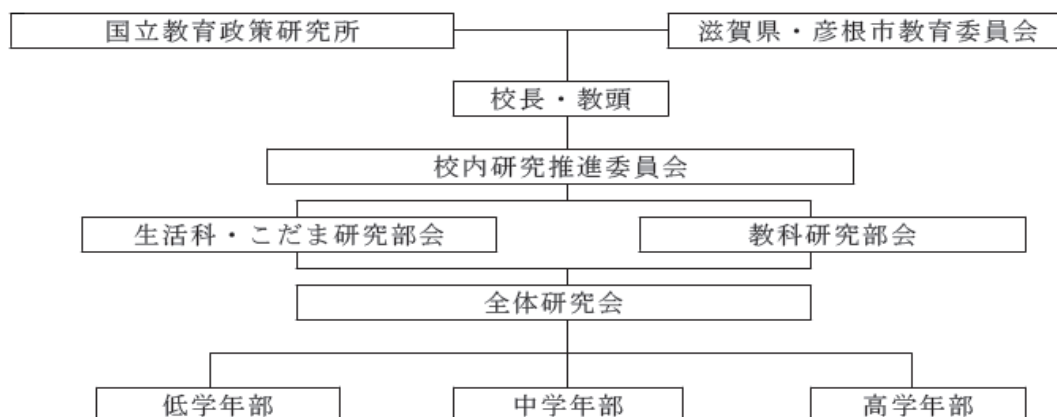
そこで本校では、総合的な学習の時間を中心に、「城西小学校E S Dカリキュラム」を構築し、子供たちが全教育課程で主体的に学習に取り組み、E S Dの視点に立って物事を思考・判断し、その成果を積極的に発信できる力の育成を図りたいと考える。そのため、持続可能な社会づくりの担い手となる子

供たちに必要な力を、①学びへの意欲、②思考力・判断力・表現力、③実践力として捉え、その力の育成に向けて、本研究の主題を設定した。

### (3) 研究体制

校内に研究推進委員会を設置し、研究主任をはじめ、校長、教頭、教務、総合的な学習の時間主任、理科主任、国際理解主任、生活科主任、特別支援主任で組織する。

また、各教科のE S D教育を推進する教科部会と生活科・総合的な学習の時間を中心としてE S D教育を推進する生活・こだま部会の2部会を組織し、教科、総合両面でE S D教育の在り方を探っていく。



### (4) 1年間の主な取組

平成27年度	5月11・14日	研究推進委員会 研究構想の共通理解 講師：滋賀県立大学准教授 木村裕先生
	6月1日	全体会 評価規準作成の研修 講師：県立大学 木村裕先生
	7月1日	授業研究会 5年「感じようびわ湖 見つけよう私たちの暮らし」
	7月15日	校内研究会 講師：澤井 陽介 教育課程調査官
	夏季休業中	評価規準検討・E S Dカレンダー、総合的な学習の時間年間計画見直し
	10月14日	授業研究会 3年「こんなキャッスロードになったらいいな ～笑顔いっぱい夢いっぱいの町を作ろう～」
	11月9日	授業研究会 6年「直弼公の生き方に学ぶ」
	11月11日	授業研究会 1年「秋のフェスティバルを開こう」
	11月26日	授業研究会 2年「うごく うごく わたしのおもちゃ」
	1月15日	授業研究会 4年「彦根城ちびっこマスター ～城下町のひみつをさぐる～」
	1月21日	研究推進についての指導 講師：奈良教育大学准教授 赤沢早人先生 城西小学校研究中間発表会 全クラス公開授業（地域公開授業） 全体会講演「子供たちに求められる資質や能力」講師：澤井 陽介 調査官
	2月3日	国立教育政策研究所 研究協議会発表
	3月末（予定）	全体会 今年度の成果と課題について 講師：県立大学 木村裕先生 奈良教育大学 赤沢早人先生

## 2 研究内容及び具体的な研究活動

### (1) 研究内容

#### ①学びへの意欲を高める地域教材，学習活動の開発

- ・歴史・文化遺産，自然環境，国際理解の観点から，地域の特色を生かした学習素材を開発する。
- ・調査活動，体験活動，人や社会とのつながりを実感できる活動を充実させる。

#### ②思考力を高める場の設定，ツールの活用

- ・主体的・協働的な学びを重視した授業の改善を図る。
- ・思考ツールを用いた話し合い活動を充実させる。

#### ③E S Dの視点に基づく評価規準の作成

- ・生活科，総合的な学習の時間の評価規準をE S Dの視点で捉え直す。
- ・ルーブリックを用いた評価手法を活用し，能力育成を重視した評価基準の作成を図る。

#### ④実践力を発揮する場の設定

- ・学んだ成果をもとに，友だち・保護者・地域・社会に働きかける力の育成を図る。

### (2) 具体的な研究活動

#### ①学びへの意欲を高める地域教材，学習活動の開発

- ・子供たちが学びを主体的に進めるためには，子供たち自身が「調べたい，学びたい」という意欲をもつことが大切である。そのためには，学習対象が子供たち自身の生活に身近なもの，関わりがあるものが効果的であると考え。そこで地域にある歴史・文化遺産，自然環境，国際理解を学習の対象として，地域商店街の町づくり，国宝彦根城と城下町，城山，地域出身の井伊直弼公を中心に，教材開発を進めてきた。
- ・学習過程では，子供たち自身が自ら調査を行ったり，体験をしたりする活動を意図的に仕組むようにしてきた。また子供たちと地域社会とのつながりを大切にし，地域の人材活用を推進してきた。

#### ②思考力を高めるツールの活用

- ・子供たちの思考力を高めるためには，学習展開の中で，思考する場面を意図的に設定することが大切である。またこれからの社会では，他者と協力して，様々な課題を解決する力が必要になってくる。そこで，様々な場面で思考ツールを活用し，子供たちが協働的に学び合う学習展開を図った。

#### ③E S Dの視点に基づく評価規準の作成

- ・従来作成した生活科・総合的な学習の時間での評価規準をもとに，E S Dでつけたい四つの力，三つの態度をクロスさせ，新たに城西小スタンダード評価規準の作成を行なった。
- ・スタンダード評価規準をもとに，各学年の内容にそって評価規準，またそれに準じたルーブリックを作成し，学習全体をE S Dの視点で捉え，児童の能力，態度の育成を図った。

#### ④実践力を発揮する場の設定

- ・「つながり」「Act Locally」をキーワードに，地域につながり，地域で行動できる場の設定を図ってきた。
- ・子供たちの学んだ成果を，友だち，保護者，地域，社会に向けて発信する場を設定し，自ら社会と関わる態度を意図的に養うようにした。

## 3 研究の成果と課題

### (1) 成果

- 地域教材を中心に扱うことにより、子供たちの学びに対する意欲が高まった。また、地域教材は、地域の人々が大切にしているものが多く、「子供たちの学習の成果＝地域の人々の願いの実現」という面があり、ゲストティーチャー等で、地域の方々とのつながりを深めることができた。
- ウェビングマップ、付箋を用いたKJ法、ピラミッド図等、思考ツールを活用したことにより、個々が集めた情報を可視化することができ、子供たちがその情報を動かしたり付け加えたりすることを通して、他者と協力したり、多面的・総合的に考えたり、コミュニケーションを行ったりして、活発な話し合いが展開された。
- ESDの視点をクロスさせたスタンダード評価規準をもとに、各学年が学習単元の評価規準を作成することにより、教師が学習を進める上で、ESDの視点を意識し学習を構成することができるようになった。また、それぞれの能力・態度に関して、全学年を通して系統的な育成を意識することができた。
- ループリックを作成し、それを子供と共有することにより、子供自身がその力を意識して、自分の学びを深めることができた。また、付けたい力を段階的に評価規準として示すことで、教師が個々の子供の能力の現状を把握し、適切な支援を考えることができた。
- 学びの成果を、地域の方々に関わって発信することにより、子供たちの地域への関心が高まり、地域へ働きかける活動が充実してきている。

## (2) 課題

- 目的に応じた思考ツールの活用の仕方を工夫すること、また、各教科等の相互関連を図り、日頃から思考力を高めるための授業改善を進めること。
- 各学年でめざす子供たちの姿を具体的に捉え、教師間で共通理解して、6カ年を見通し系統的に表現力（コミュニケーション力）を子供たちに育成すること。
- 思考力（批判的に考える力・多面的に考える、総合的に考える力）に関わるループリックを用いた評価について、より具体的な子供の姿の共通理解を図るとともに、評価方法についての研究を深めること。
- 子供たちが、地域とつながり、学びの成果を生かし実践力を高めるための手段や教材開発を広げていくこと。

## (3) 2年目へ向けての取組

- ・子供の実態を捉え、学校の課題とともに、地域の課題と結びつけた地域教材の開発を進める。
- ・ESDカレンダーの修正を図り、生活科、総合的な学習の時間だけでなく、各教科とも横断的にESDの力の育成を図る。
- ・思考力・表現力の評価について、ループリックをより効果的に用いる方法等を研究する。